

会 議 録

会 議 の 名 称	令和8年度第1回弘前市スポーツ推進審議会
開 催 年 月 日	令和8年9月9日（水）
開 始 ・ 終 了 時 刻	14時00分 から 15時40分まで
開 催 場 所	弘前市役所市民防災館3階 防災会議室
議 長 等 の 氏 名	【議長（会長）】 田澤 昭次郎 公益財団法人弘前市スポーツ協会副会長
出 席 者	【学識経験者】 田澤 昭次郎 公益財団法人弘前市スポーツ協会副会長 井澤 隆昭 弘前市スポーツ推進委員会会長 矢本 諭佳子 弘前市スポーツ少年団監事 菊地 幹 東奥日報社弘前支社長 渡邊 智 陸奥新報社相談役 對馬 大成 弘前大学教育学部附属特別支援学校教諭 【関係行政機関】 船水 泰秀 弘前市立第四中学校長
欠 席 者	戸沼 宏美 青森県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 中嶋 実樹 青森県障害者スポーツ協会理事 工藤 隆幸 弘前市立致遠小学校長
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	若松 義人 健康こども部スポーツ振興課長 澁谷 明秀 健康こども部スポーツ振興課長補佐 葛西 弘典 健康こども部スポーツ振興課係長 山田 美花 健康こども部スポーツ振興課主事
会 議 の 議 題	・第2期弘前市スポーツ推進計画の事業実績について
会 議 結 果	数値目標の評価方法について疑義が生じたことから、会長の判断により再審議することとした。
会 議 資 料 の 名 称	・第2期弘前市スポーツ推進計画 各事業の令和7年実績等
会 議 内 容 （ 発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等 ）	（会議内容） 1 開会 2 会長あいさつ 3 会議 4 閉会 ≪ 1 開会 ≫ ≪ 2 会長あいさつ ≫

《 3 会議 》

会 長：本日の議題は「第 2 期弘前市スポーツ推進計画の事業実績について」です。事務局から説明をお願いします。

事務局：令和 7 年度の事業実績について説明

会 長：ただ今の説明に対してご意見、ご質問はありませんか。

委 員：「部活動の地域展開」という言葉がこの資料に見当たらない。何かこの辺は理由があるのか。

事務局：これまで学校指導課が主体で進めてきた事業であり、当課としては事務局・検討委員という形で関わってきた。これから次期総合計画の中で、しっかりと位置付けられていくものと考えている。

第 2 期弘前市スポーツ推進計画の計画期間が今年度までとなっていることから、第 3 期の計画を新たに作成するということになっている。基本的には総合計画を最上位計画としているため、その中のスポーツに関する部分に特化した計画として第 3 期スポーツ推進計画に部活動の地域展開は明記していく予定である。

委 員：部活動アシスタントについて、「37 人」の評価を知りたい。

事務局：37 人が十分な数字ではないと考えている。今後増員について検討したい。

委 員：満足度がどれぐらいなのか、37 人の内訳も競技ごとに偏りがあるのか。現状が分かるよう示してほしい。会議の場に教育委員会がオブザーバーとして参加してもいいのではないかな。

事務局：個別の事業に関してそれぞれ評価を出している形の資料ではないため、評価基準がわからない状態である。次回の推進計画を作る際は改善し、関係する部分にはオブザーバーなどの出席も含めて検討したい。

	委員：障がい者スポーツの事業について、実績値としてはかなり少ないと感じる。障がいのある学生や一般社会人のスポーツをする場やその機会が少なく全国的に見ても青森県、弘前市の実施率は低いと感じる。 会長：国スポ・障スポで開催する競技は盛り上がっているが、少子化、人口減少、高齢化等で各種事業の参加数が少ない。 委員：軽スポーツもやる人とやらないと人が極端に分かれていて人数が定まらないように感じる。それから、「部活動アシスタント」と「部活動指導員」はどう違うのか。 事務局：部活動指導員は学校の顧問と同じレベルまで指導ができ、国・県の事業で行っているもの。部活動アシスタントは、部活の指導はするが遠征まではできないように、市の予算で行っているもの。いずれも、教育委員会が行っている研修を受けて委嘱してると聞いている。 委員：スポーツ少年団については、毎年太田市との交流で剣道、サッカー、野球のいずれかのチームが派遣と受入を交互にしている。去年は剣道の受入で、主に石川と千年の小中学生が交流試合をした。子どもたちにとって、とてもいい経験になった。 委員：R8年度は国スポ・障スポにより施設の利用制限があり影響が出ている。消化できなかった事業はR9年度に繰り越してほしい。 委員：国スポ終了後の市民スポーツサポーター制度の検討とは。 事務局：国スポ・障スポのボランティアに申し込んでいただいた方々にアンケートを取り、継続したい方を派遣できるような体制を検討中である。 委員：数値目標1について、22年度の基準値が39.4%で、25年度の実績値が40.6%なので、1.2ポイント上積み
--	---

	してる。26 年度に 50%と目標を抱えているが、相当厳しいと思われる。「概ね評価できる」ということが一般の人も納得できるのか。少なくとも、理由がわかるような資料を作って欲しい。 事務局：総括としては、目標に向かって取り組んでいるため「概ね評価できる」という形で評価したところだが、最終的なご意見はこの審議会場でいただくものと考えている。この場で、委員の方から意見を仰っていただければ、評価そのものも委員の評価を尊重して最終的な評価を行いたい。 委 員：△だから全部駄目なのではなく、一般の人も理解して読めるような資料になるとよい。改めて事務局から示してもらいたい。 会 長：この評価はアンケートの数字だけでなく、色々な計画の総合的な評価だと考えている。 委 員：アンケート等の結果だけでは、たくさんの事業を評価するのは難しいのでは。 事務局：事務局の方で持ち帰り、再検討する。 会 長：次の計画ではどういうものを数値目標として設定すればよいのかをしっかりと考えていきたい。 会 長：そのほか事務局から何かありますか。 事務局：今後のスケジュールについて説明 会 長：他に無いようですので、これをもちまして、本日の会議を閉会し、進行を事務局へお返しいたします。 ≪ 4 閉会 ≫
その他必要事項	会議は公開